

令和 5 年 度  
総合型選抜（福祉情報学部） 試験問題

# 小論文

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないで下さい。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入して下さい。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用して下さい。
- 4 問題は全部で 9 ページあります。
- 5 試験時間は 9 0 分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手して下さい。

## 第1問

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

設問

筆者のwell-beingに対する見解を踏まえて、自分にとってのwell-beingとは何かを答えなさい。  
(500字以内)

【出典】前野隆司、前野マドカ『ウェルビーイング』日経BPマーケティング、2022年

## なぜいまウェルビーイングなのか

### ウェルビーイングの定義

いま、ウェルビーイングという考え方が注目されています。

このウェルビーイング、初めて言葉として登場したのは、1946年に設立された世界保健機関（WHO）の憲章です。設立者の一人である施思明<sup>スーミンズ</sup>氏の提案によるものでした。では、ウェルビーイングとは何でしょうか。訳語としては「健康」「幸福」「福祉」「よいあり方」などが当てられてきました。WHOの憲章における「（広い意味での）健康の定義」のなかで使われている単語です。

すなわち「健康とは、単に疾病や病弱な状態ではないということではなく、身体的、精神的、そして社会的に完全に良好ですべてが満たされた状態である」と定義づけられたなかの、「満たされた状態」がwell-beingという英単語です。「ウェル」と「ビーイング」ですから、直訳すると「良好な状態」なのですが、最近は「満たされた状態」と訳されることが多いようです。

身体的、精神的、社会的に良好な状態を、広い意味で健康といいます。つまり、狭い意味での心身の健康だけでなく、心の豊かな状態である幸福と、社会の良好な状態をつくる福祉を合わせた、心と体と社会のよい状態がウェルビーイングです。したがって、「楽しい」「うれしい」など幸せの感情の一部を表す英語のハピネスとはニュアンスが違います。

そうした感情のほかに、例えばやる気、思いやり、チャレンジ精神、あるいは理念や夢に賛同する心など、やりがいやつながり、利他性などにも関係する状態をウェルビーイング、よい心の状態というのです。

ですから、もともとWHOの定義にあった「広い意味での健康」とは、随分と広い意味に捉えるべき言葉であるということが出来ます。

ウェルビーイングという言葉が、日本の学問分野ではどのように使われているかといえば、例えば医療系の学会では「健康」と訳されていますし、心理学者は「幸せ」と訳します。また、福祉関係の学会では「福祉」と訳されています。SDGsの目標3「Good Health and Well-Being」は「すべての人に健康と福祉を」と訳されています。

本書では、ウェルビーイングを「健康」と「幸せ」と「福祉」のすべてを包む概念として捉え、特に「幸せ」という要素を中心に解説していこうと思います。

医療や福祉の分野には「ヘルス」「ウェルフェア」あるいは「ウェルネス」という言葉もあります。「ウェルフェア」は福祉という意味で使われますが、「ウェルネス」の定義は「身体的、精神的、社会的に、相互に関連する多様な側面を意味する」となっていますので、本来的にはウェルビーイングと近い概念であるといえそうです。

ただし、文脈としては、ウェルネスは身体・健康という面で使われることが多く、心の健康・幸せの場合を表す言葉としてはあまり使われていないというべきでしょう。

とはいえ、1940年代にはウェルビーイングという単語は健康に足場を置いていた単語であったのに、近年は幸せというニュアンスが広まっているというように、言葉は変化するので、この先どう変化するかはわかりません。結局のところ、ウェルネスとウェルビーイングは兄弟のような

言葉だと捉えればよいと思います。

中略

### 人口増加と定常化のサイクル

米国の生態学者ディーヴェイ氏が仮説的図式として表した、世界人口の超長期推移のグラフがあります。このグラフは、人類の登場からいままでの世界人口の増加傾向を示すもので、100万年前から現在までが3つの段階に分かれており、いずれの段階も、増加を示した後に増加期間よりも長いフラットな定常化期があるのが特徴です。

ディーヴェイ氏の図をもとに、京都大学こころの未来研究センターの広井良典教授が描いた「人類史における拡大・成長と定常化のサイクル」と題する図があります。こちら、人類誕生から現在までの3段階の上昇と、増加後の長い定常化を模式的に表したものです（図表1）。

20万年前に誕生した人類は、最初、狩猟採集で生活します。先述のソサエティ1.0の段階です。食料が潤沢な間は人口が増えますが、食料に対して人が増えすぎると、増加は止まり定常化①するわけです。そこで農耕が始まり、再び人口は増加します。ソサエティ2.0です。やがて農業にも限界が来て定常化②します。

次には工業が起こって産業革命を経て情報化・金融化へと続くソサエティ3.0、4.0となり、再び人口が増えます。しかし、その後に地球環境の限界が到来します。日本も、育児コストの高さと女性の再就職の難しさが壁となって、出産数の減少による少子化が進み、定常化③に向かいます。

中略

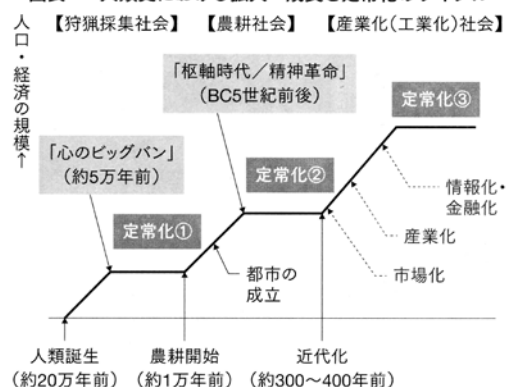
### 経済成長から心の成長へ

定常化の時代に、芸術が栄えたり思想が芽生えたりすることがわかりました。その目で世界の今後を展望すると、どう見えるでしょうか。経済至上主義の観点から見ると衰退に見える世界ですが、見方を変えたと、むしろ文化が花開く時代です。3度目の定常期は、豊かな成熟期であると考えerべきではないでしょうか。

日本は世界に先駆けて人口減少が起こっていますが、見方を変えれば、人類史20万年における3回目の定常化への曲がり角を最初に曲がろうとしている国であるともいえます。

この30年ほどはすでに成長が止まっていますから、日本は定常化の曲がり角にトップランナーとしてすでに飛び込んでいるというべきかもしれません。しかし、この曲がり角は日本にだけ用意されたものではありません。少子化、食糧危機の波は、数十年後、百数十年後には人口増加中のアフリカも含めて世界すべてを飲み込みます。世界人口は数十年から百数十年後には減少に転

図表1 人類史における拡大・成長と定常化のサイクル



【出典】広井良典『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社、2001

じると考えられています。

これは人類史の必然です。興味深いことに、日本は、かつての世界の大きな潮流にいつも遅れて飛び込んできました。例えば世界の農耕開始は約1万年前ですが、日本に農耕民が登場したのは約3000年前ですから、7000年遅れです。産業化も英国から遅れること約150年です。

このように、増加期に常に遅れて参入した日本が、今度は先に定常化に向かっているわけです。産業化で後れを取っていた間、日本は世界に誇る浮世絵やわびさびの茶道などを確立する文化的な時代を過ごしていました。その意味では、定常時代の長い国と見ることもできます。そんな日本が、世界に先駆けて3度目の定常化を迎えているのです。

人口増加時代と定常時代は、経済成長時代と心の成長時代といえます。経済成長から心の成長へというステップを2度繰り返した後の、3度目の経済成長の次に来る3度目の心の成長期へと、また入っていくのです。心が成長する時代というのは、心の豊かさを目指す時代です。人間性を高める時代に向けて、日本はいま、その一番手にいると考えることもできるのです。

#### 中略

ウェルビーイングは、個人を対象にするだけでなく、個人と社会と地球のよりよい状態を総合的に考えるものなのです。ですから前述の通り、SDGsも包含するような概念だといえるのです。

心の幸せを求める世界でのトレンドの1つは、人の感性や創造性に訴えかけ、他者とのつながりを大切にする、という流れです。つまり、経済成長から心の成長へ。

では、心の成長とは何でしょうか。過去から学べば、音楽や美術、武道、仏道、茶道、華道といった文化、芸術に寄り添ったものになるのではないのでしょうか。伝統芸能や伝統工芸もここに含まれます。また、ここにAIやテクノロジーも介在すべきでしょうし、クールジャパンのような現代的な文化・芸術も一翼を担うでしょう。

もちろん、それらを、金銭的欲求を満たすためだけに展開するのではなく、それ以上に環境への配慮を含めた社会性や公共性、人々の生活の文化的な質を高める方向、すなわちウェルビーイングが高まるほうに価値がシフトしていくのではないかと思います。

ここでもう一度、ウェルビーイングを真に理解していただくための注意点を述べておきましょう。これからのウェルビーイング産業の隆盛を、5年スパンほどの流行り物<sup>はや</sup>のように捉えるならば、ウェルビーイングの正体を見誤るでしょう。

前述の、人類誕生から現在までをトレースした図表1を思い出してください。20万年の人類史という大きな視点で見て、3度目の定常化にさしかかっているのです。

世界は産業革命以来、物的欲求を満たすことを第一義とする経済成長至上主義、個人主義的なトレンドが300年近く続いてきました。個が潤えば市場の原理が働いて全体も潤うようになる、という資本主義の原理によって発展してきた300年だったといえます。

しかし、経済規模が膨れ上がるとともに、環境問題や貧困問題などのグローバル 이슈が肥大化した現在では、従来の資本主義、個人主義の考えは、そのままでは通用しなくなってきました。つまり、従来の資本主義は限界にきているということです。

## 第2問

6 ページ以降の資料をもとに、以下の設問に答えなさい。

### 設問 1

図表 2 - 1 は、OECD（経済協力開発機構）による生徒の学習到達度の国際比較である。この表から読み取れる日本の生徒の学習到達度について考察しなさい。（80字以内）

### 設問 2

図表 2 - 2 は、ICT活用調査（PISA2018）による学校・学校外でのデジタル機器の利用状況に関するものである。図表 2 - 2 から読み取れる日本の生徒のICTの活用状況を考察しなさい。（160字以内）

#### ※ICT活用調査

生徒に、携帯電話、デスクトップ／タブレット型コンピュータ、スマートフォン、ゲーム機など、様々なデジタル機器の利用状況について尋ねた調査。

#### ※PISA（Programme for International Student Assessment）

OECD（経済協力開発機構）の生徒の学習到達度調査（PISA）は、義務教育修了段階の15歳児を対象に、2000年から3年ごとに、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野で実施。日本は、高校1年相当学年が対象で、2018年調査は、同年6～8月に実施。

### 設問 3

日本のICT教育は世界の国々と比較してどのような状況にあると考えられるか。図表 2 - 1 ～図表 2 - 4 を用いて説明しなさい。（400字以内）

図表 2-1 読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーのOECD加盟国（37か国）における比較（2018年）

|    | 読解力      | 平均<br>得点 | 数学的リテラシー | 平均<br>得点 | 科学的リテラシー | 平均<br>得点 |
|----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1  | エストニア    | 523      | 日本       | 527      | エストニア    | 530      |
| 2  | カナダ      | 520      | 韓国       | 526      | 日本       | 529      |
| 3  | フィンランド   | 520      | エストニア    | 523      | フィンランド   | 522      |
| 4  | アイルランド   | 518      | オランダ     | 519      | 韓国       | 519      |
| 5  | 韓国       | 514      | ポーランド    | 516      | カナダ      | 518      |
| 6  | ポーランド    | 512      | スイス      | 515      | ポーランド    | 511      |
| 7  | スウェーデン   | 506      | カナダ      | 512      | ニュージーランド | 508      |
| 8  | ニュージーランド | 506      | デンマーク    | 509      | スロベニア    | 507      |
| 9  | アメリカ     | 505      | スロベニア    | 509      | イギリス     | 505      |
| 10 | イギリス     | 504      | ベルギー     | 508      | オランダ     | 503      |
| 11 | 日本       | 504      | フィンランド   | 507      | ドイツ      | 503      |
| 12 | オーストラリア  | 503      | スウェーデン   | 502      | オーストラリア  | 503      |
| 13 | デンマーク    | 501      | イギリス     | 502      | アメリカ     | 502      |
| 14 | ノルウェー    | 499      | ノルウェー    | 501      | スウェーデン   | 499      |
| 15 | ドイツ      | 498      | ドイツ      | 500      | ベルギー     | 499      |
| 16 | スロベニア    | 495      | アイルランド   | 500      | チェコ      | 497      |
| 17 | ベルギー     | 493      | チェコ      | 499      | アイルランド   | 496      |
| 18 | フランス     | 493      | オーストリア   | 499      | スイス      | 495      |
| 19 | ポルトガル    | 492      | ラトビア     | 496      | フランス     | 493      |
| 20 | チェコ      | 490      | フランス     | 495      | デンマーク    | 493      |
|    | OECD平均   | 487      | OECD平均   | 489      | OECD平均   | 489      |

## 【出典】

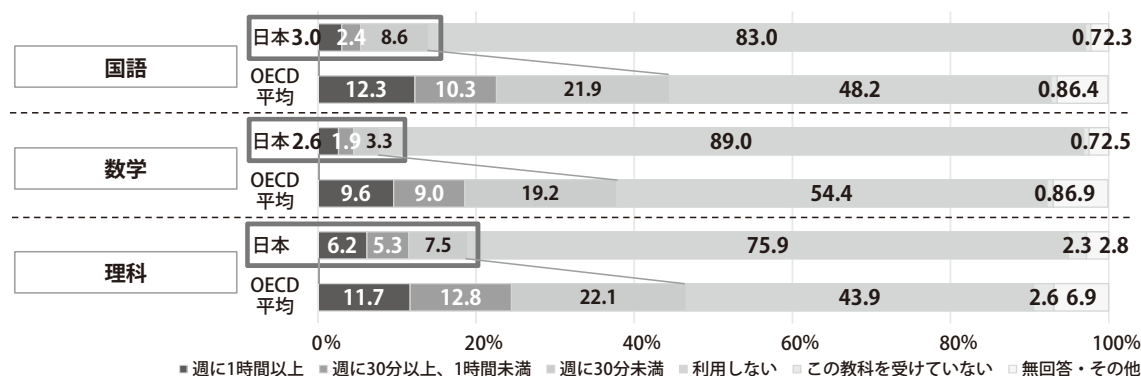
文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査（PISA2018）のポイント」（2019）

※平均得点

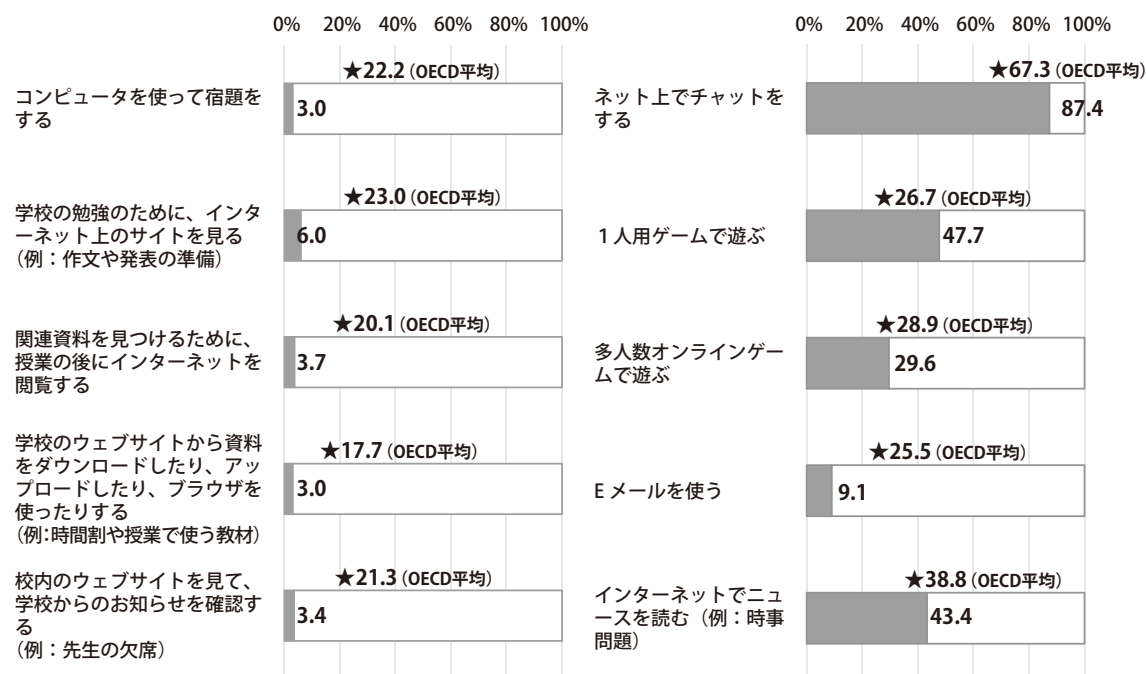
各リテラシーが初めて中心分野（重点的に調査する分野）となった回（読解力は2000年、数学的リテラシーは2003年、科学的リテラシーは2006年）のOECD平均500点を基準値として、得点を換算。

図表 2-2 学校・学校外でのデジタル機器の利用状況（2018年）

● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (■は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)

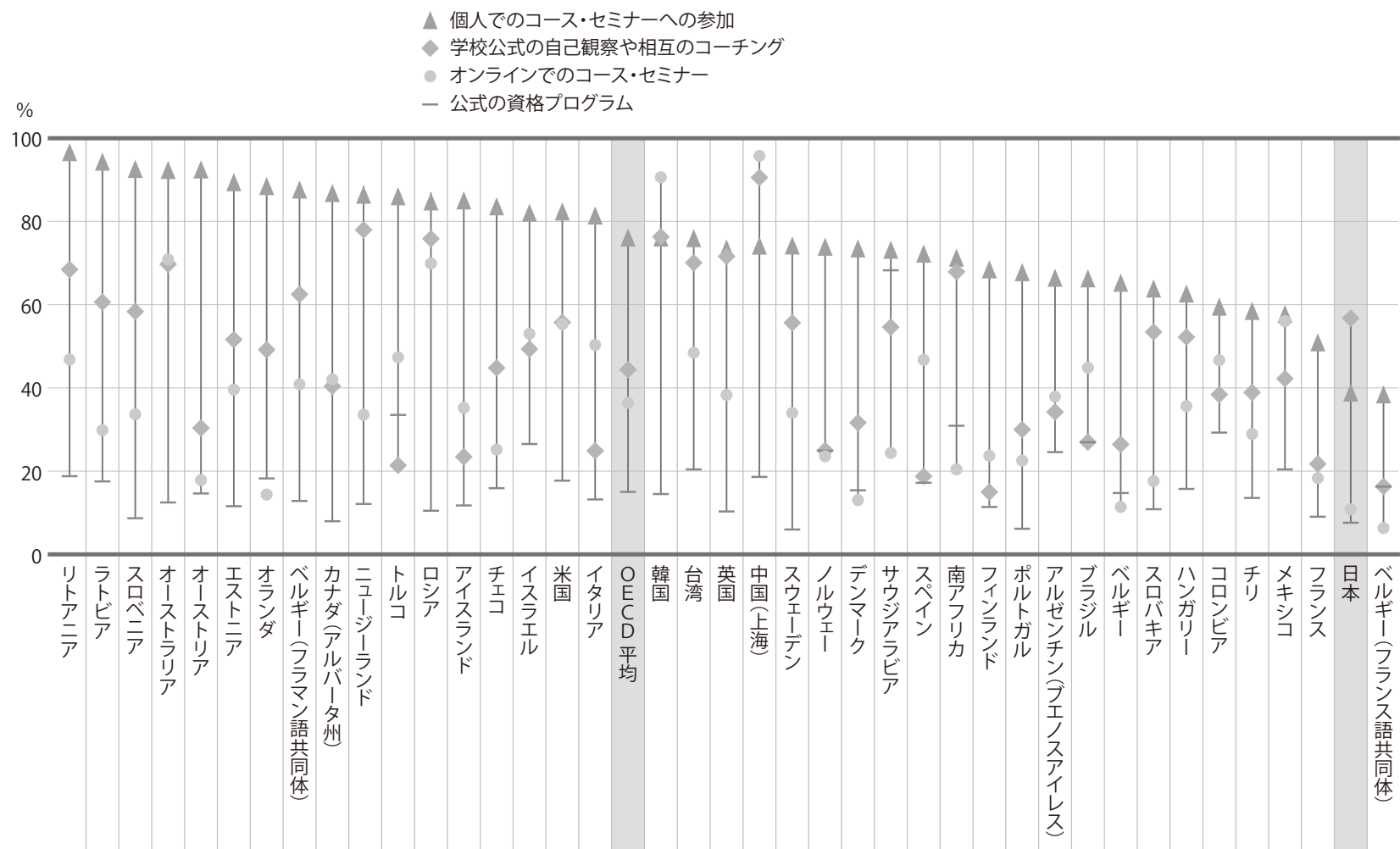


【出典】

文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査（PISA2018）のポ  
イント」（2019）



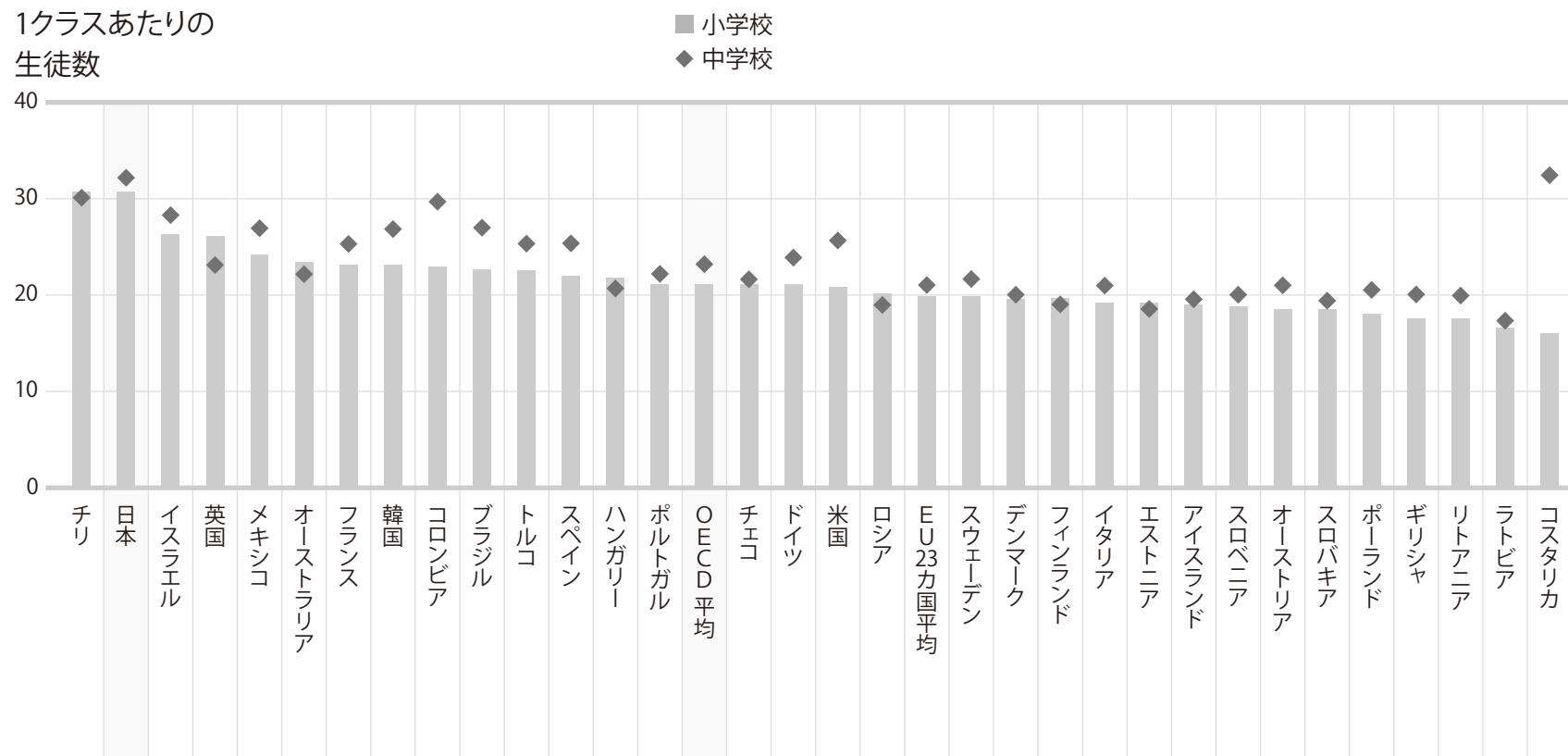
図表 2－3 中学校の教員が各種の職業訓練に参加した比率（2018年）



【出典】

OECD (2019), TALIS (Teaching and Learning International Survey) 2018Results (Volume I) : Teachers and School as Lifelong Learners.

図表 2－4 小中学校の平均クラスサイズ（2018年）

1クラスあたりの  
生徒数

【出典】

OECD Education at a Glance (2020).